

TOPICS

1

若手トップリサーチャー研究奨励賞 南助教、寺西准教授を表彰



本学は、優れた業績を挙げた若手研究者を顕彰する「岡山大学若手トップリサーチャー研究奨励賞」について、文系受賞者に埋蔵文化財調査研究センターの南健太郎助教、理系受賞者に大学院自然科学研究科の寺西貴志准教授を選び、2月10日に学長室で表彰式を行いました。

文系受賞者となった南助教は、銅鏡の一部を破壊することなく精度の高い分析データを得るために、物理学分野との共同研究の下、特性X線ミュオン非破壊非接触での分析に成功し、ミュオン非破壊分析法の確立に著名な業績を挙げていることが高く評価されました。

理系受賞者となった寺西准教授は、誘電分極をリチウムイオン電池の出力改善に利用する全く新しい試みを行っており、チタン酸バリウム系強誘電体のナノ粒子をセル電極に人工界面層として導入することで、高速充放電特性が劇的に向上することを世界に先駆けて見いだされたことが高く評価されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9129.html



TOPICS

2

医学部医学科が、国際基準に基づく医学教育分野別評価に適合認定

医学部医学科は、国際基準に基づく医学教育分野別評価の適合認定(認定期間:2019年4月1日～2024年3月31日)を受けました。

日本の医学教育を世界医学教育連盟(WFME)が定める国際基準に対応させるために、2013年度(平成25年度)から、日本医学教育評価機構(JACME)による国際基準に基づく医学教育分野別評価がはじまりました。

岡山大学医学部医学科では、2016年度に医学教育分野別評価を受審し、国際基準に適合していることが認定されました。この認定により、本学の医学教育の質が国際基準に適合していることが示されました。また、本学医学部医学科の卒業生は米国医師国家試験(USMLE)受験資格審査試験を受験することができます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9106.html



Pick up!

文部科学省エントランスにて企画展示を開催



2月18日～3月19日まで、文部科学省との共同企画展示を開催しています。文部科学省新庁舎(東館)2階エントランスで、「岡山大学方式の人工網膜 OUReP™」についてパネル・人工網膜の実物を展示します。実用化に向けた取り組みについてのストーリー及び「OUReP™」の実物を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

【OUReP™】

岡山大学方式の人工網膜「OUReP™」は、光電変換色素分子を素子とする色素結合薄膜型の人工網膜です。現在、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)とRS戦略相談(旧薬事戦略相談)を積み重ね、「医薬品医療機器法(旧薬事法)」に基づく医師主導治験を岡山大学病院で実施する準備を進めています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9119.html



TOPICS

3

大学と企業が連携し研究開発を加速する 「おかやま次世代電池共創コンソーシアム」を発足

本学と岡山県は2月6日、次世代電池に関する共同研究を目指す企業と大学研究者らが集う「おかやま次世代電池共創コンソーシアム」の設立総会を開催し、本コンソーシアムを発足させました。

本コンソーシアムは、岡山県「大学と連携した地域産業振興事業」の一環として立ち上げたものであり、次世代電池分野において共同研究を目指す企業と大学研究者などが集い、多面的な連携による共同研究の促進を図る「共創の場」として本学に設置。津島キャンパスに会員が利用できる「オープンラボ」を2カ所開設し、電池の試作や評価・解析などを可能にするほか、専門家を招いて定期的に勉強会を開催するなどさまざまな支援を行い、参画する企業と研究者による共同研究を促進して関連技術の高度化につなげることを目指します。なお、本コンソーシアムの会長には大学院自然科学研究科の後藤和馬准教授が指名を受けて就任しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9120.html



TOPICS

4

女子アイスホッケー部と放送文化部が全国大会での活躍を学長に報告！



女子アイスホッケー部と放送文化部が2月12日、榎野博史学長と佐野寛理事(教学担当)・総括副学長に、全国大会での活躍を報告しました。

女子アイスホッケー部は、昨年11月7～10日に開催された「第7回日本学生女子アイスホッケー大会」で2年連続の準優勝、放送文化部は、同12月7日に開催された「第36回NHK全国大学放送コンテスト」で映像番組部門の1位に輝きました。

榎野学長は、両部に対してお祝いの言葉を伝え、「個々の部員が輝き、一人一人が役割を果たすことで、チーム全体を通しての掛け算のような働きをすることもいえる。部としてのサステナビリティも重要なので、上級生が後輩たちにきちんとバトンタッチをしてほしい」と話しました。

普段交流機会の少ない両部が互いの活動に質問を行うなど、和やかな雰囲気での報告会となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9126.html

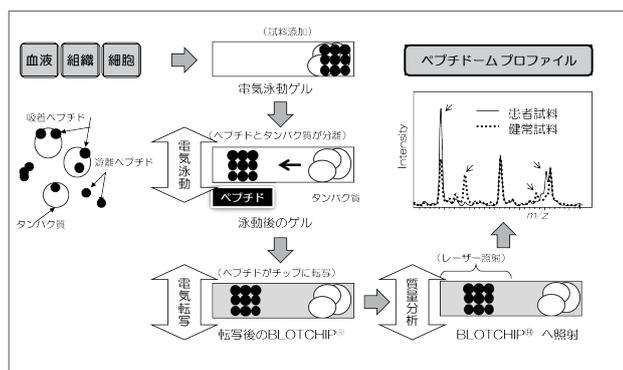
PRESS
RELEASE

少量の血液から認知症リスクが診断可能に！ 認知症リスクの指標となる血中ペプチドバイオマーカーを発見

大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学の阿部康二教授と株式会社プロテラは、認知症の前段階であるMCIや、アルツハイマー病(AD)患者の血液を解析し、特異的に存在する4種類のペプチドを発見。この4種類のペプチドが、認知症のリスクを発見するバイオマーカーセットとして有用であることを確認しました。その結果、少量の血清(30 μ L)から認知症をリスク判定することができるようになりました。

今回発見された新しい血中ペプチド性バイオマーカーセットは、新規で、迅速で、非侵襲性で、定量性の高い、低コストな認知症スクリーニング法を提供するほか、これまでの血清アミロイド β や血漿タウを標的とした認知症治療薬開発の失敗に対して新しい創薬アプローチを提供する可能性があります。本研究成果は2019年11月18日、医学誌「Journal of Alzheimer's Disease」の電子版に掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id699.html



BLOTCHIP®-MS法